

しじん さいがい ま 自然の災害に負けないために(大雨にそなえる) おおあめ

大雨による洪水などからわたしたちを守ってくれるのは、堤防・排水機場・砂防施設・ダムです。また、台風による高潮から守ってくれるのは高潮堤防です。この役割を考えてみましょう。



ていぼう 堤防

やま へいち おおあめ ふ
山や平地に大雨が降ると、降った雨は多くの小さな川の水を集め
ます。水の量も増し、ふだんのときと比べ
て大変高い水かさとなります。堤防は、この高い川の水を防ぎ家や田畠を守るもので
す。



すいもん はいすいきじょう 水門と排水機場

木曽三川の水の量が増えると小さな川に水が逆流してきます。それを防ぐのが水門です。しかし、水門を閉めると、水がたまり家や田んぼが水につかってしまいます。そのたまたまつた水をはき出すのが排水機場です。



こうずい ふせ 洪水を防ぐダム

ダムは、わたしたちの住む土地を洪水から守るために、川の上流で洪水の一部をためて、下流の洪水の量を減らしています。木曽川・揖斐川の上流部にもダムがあり、下流域のみなさんのためにがんばっています。



とくやま 徳山ダム



い けんがく
ダムに行って、見学しよう

自然の災害に負けないために(大雨にそなえる)

木曽三川の工事などを行う事務所では、川が氾濫しないようにしたり、台風による高潮が堤防をこえないようになりますために川の工事を行っています。また、堤防のようすを調べ古くなった施設を直す工事などを行い、災害に備えています。



川の工事

堤防のはばを広げ、高くする工事をしています。



ひ管をがんじょうにする工事をしています。



川の水が多く流れるよう川底を掘る工事(しゅんせつ工事)をしています。



堤防のようすを調べ・直す工事

パトロールなどによって堤防などのようすを調べ、直す工事をしています。



大きな災害への備え

伊勢湾台風のような大きな災害がおきると広い地域に影響が出ます。このため、水につからない高さで、広い作業をする場所をつくっています。ここには、大きな災害に備えるため多くの大きなブロックなどをたくわえることとしています。



河川防災ステーション(揖斐川右岸城南)

水防倉庫

水防活動は、すばやく活動をしないと、こわれたところがどんどん広がっていきます。堤防を直すため、川のそばに「くい」、「なわ」、「ブルーシート」、「どのう袋」など材料がおさめられた水防倉庫があります。



サイレン・スピーカー

サイレン・スピーカーは、災害がおこりそうになったときや災害がおこったときに、市町村から情報をいち早く知らせるものです。



水防演習

水防演習は非常に備えて、作業の練習をすることをいいます。この練習をしっかりとおかないと災害時の作業がうまくできません。



人々の工夫

濃尾平野では昔から、災害から命を守るために水屋などによる工夫がされています。これは、今にも伝えられ、高い土地をつくり、その上に家がつくられています。



現在も受けつがれている工夫

自然の災害に負けないために(土砂災害にそなえる)

川の上流から多くの土や石が川に出てくると川底が上がり、川にとってとても危険な状態になります。砂防施設は、川の上流の山くずれなどによって、大雨により水といっしょに運ばれてくる土や石による災害を防ぐ施設です。これら施設は、木曽三川の上流部でたくさんつくられています。

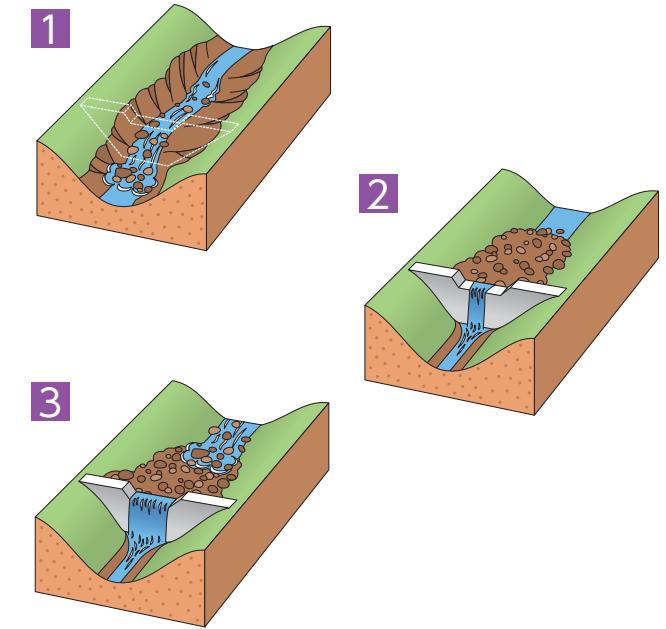


土砂災害から地域を守った砂防えん堤などのようす

砂防施設のイロイロ

砂防施設には、大雨が降ったときなどに流れてくる土砂をためることで、土砂災害を防ぐ砂防えん堤などがあります。また、こわれた山の斜面を、さくや壁をつくり、木を植えたりすることで土や石の移動を防ぎます。

- 1 砂防えん堤がないと、大量の土砂が一気に下流まで流れ出てしまいます。
- 2 砂防えん堤をつくると、上流から流れてくる土砂をため、川の勾配もゆるくなって両岸の山の斜面の崩壊を防ぐことができます。
- 3 大雨などにより土砂が流れ込んできた場合、砂防えん堤はさらに多くの土砂を一時的にためます。
- 4 一時的に砂防えん堤にためられた土砂は、その後の川の流れによって徐々に下流へと流し出され、2の状態に戻ります。



ちか
しら
近くに砂防施設がないか、
調べよう

自然の災害に負けないために (台風や洪水にそなえる)

災害のときの被害を少なくするために、ふだんから家の周りの川や水路などの危険性について家族で話し合ったり、台風などが発生した場合の準備をしたりすることが大切です。特に台風は、強い風が吹き、大雨が降り、河川の増水やはん濫、海での高潮が発生することが考えられます。「風」「洪水」「高潮」に注意しましょう。



ふだんからの備え

- ・河川や海岸、台風、大雨に関する情報の意味を知っておきましょう。
- ・家の周りの河川や海岸、水路などの危険性を確かめておきましょう。
- ・避難に関する情報と避難場所や避難の道順を確かめておきましょう。

台風が来る前に

台風が接近しているときに家の外に出るのは大変危険です。テレビなどの台風情報を見て家族で話し合いをしましょう。



●家の外の備え

- ・窓や雨戸はしっかりとカギをかけましょう。
- ・みぞなどは、そうじをしておきましょう。
- ・風で飛ばされそうな物は、飛ばないようにしておきましょう。



●避難場所の確認

- ・避難場所や避難の道順を確認しておきましょう。

●家の中の備え

- ・懐中電灯、薬、衣類、貴重品、食料、水などを準備しておきましょう。



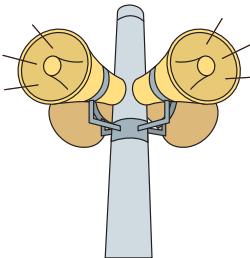
台風が接近しているとき

- テレビなどで台風情報を聞く
 - 水の増えた川や水路、崖くずれがおこりやすい所など危険な場所に近づかない
 - 避難の準備
- 市町村や町内会からの情報と避難場所までの道順や協力体制などについて確認しておきましょう。



大雨が降り続いてきたら

テレビやパソコンなどによつて川の情報を集めましょう。
市町村などからの川や地域の情報を集めましょう。



危険を感じたら

テレビなどによって川の情報を確かめましょう。
市町村などからの川や地域の情報を確かめましょう。

●避難

- ・危険を感じたり、避難の指示があったら、すばやく避難しましょう。
- ・避難の前に、必ず火を消しましょう。
- ・持ち物は必要な物を最小限にして、リュックサックなどに入れましょう。



浸水時に避難する場合は、ロープなどで体をつなぎ、棒を持ち、地面をさぐりながら避難しましょう

「台風や洪水にそなえる」をもっと知りたい人は

57～60ページを見よう！



自然の災害に負けないために (地震にそなえる)

大きな地震が発生すると、家がたおれ、火事が発生したりします。かけくずれや山くずれも発生します。家などがこみあつたところでは、大きな火事になることもあります。特に、地震によるゆれが長く続くと、海でおこった地震で津波が発生することもありますので、早く高いところへ逃げることが大切です。



ふだんの備え

■高い家具の固定



■テレビの近くで寝ない



■窓ガラスの飛びちらり防止



■テレビや市町村からの情報を正しく聞く



■薬、手回しのけいたい電灯、ビニール袋など
■避難場所や道順を知る

■3日分の食料や水の用意
■衣類や雨具

命を守る行動

■ 家の中にいたら、防災ズキンやざぶとんで頭を守る



■ 家の外にいたら建物やブロックベいから離れ、安全な場所へ逃げる



■ あわてて外へ飛び出さない台所の火はついていたら消す



■ 海辺にいたら、早く高台やがんじょうなビルの上の階に逃げる



■ 地下街にいたら、近くの大人の指示にしたがう

家族への連絡

■ 家族みんなで集合場所をきめ、連絡方法をきめておく

■ 災害用伝言ダイヤル(171)の使い方を知っておく

(「171」をダイヤルし、音声ガイダンスにしたがって伝言・再生を行ってください。)

大地震がおきたらどうしたらいいか、日ごろから準備をしたり、
家族でよく話し合っておくことが大切です。



「地震にそなえる」をもっと知りたい人は

63・64 ページで勉強しよう！